

木彫りの女の子が居ました。女の子の名前は***。女の子は堅い体を削り、少しずつ人らしさを得ていきます。ある子が言いました。「なんだ。特別だから美人になるものと思ったのに、大したことないじゃん」期待外れだと言われて女の子は傷付きました。けれど木彫りなので泣くことも「やめて」と言葉を返すこともできません。期待によって女の子の周りの集まっていた子供達が一人また一人と離れていきます。子供は無邪気で情緒的で残酷です。飽きた玩具のことなど簡単に忘れてしまいます。女の子は独りになりました。

独りになった女の子は考えました。みんな酷い。今までのことは何だったの？私のお友達ではなかったの？あの言葉も笑顔も楽しい日々も全部嘘だったの？どうして酷いことを言うの？どうして私に優しくしてくれないの？私が木彫りだからいけないの？可愛くなかったら生きてちゃいけないの？生まれて来ちゃダメなの？どうして……と女の子は悩み続けます。

答えの無いまま月日が流れ、女の子は思い至ります。誰も優しくしてくれないのは誰も優しくされたことが無いからだ。嘔吐き、酷い人、心が醜い人、みんな傷付けて傷付けられて苦しんでいる。傷付いた人ばかりだから優しくなれないんだ。それなら私は優しくなろう。私が優しくなろう。私が最初の一人になろう。私がみんなを幸せにしよう。

そうすればきっと。

きつといつか、みんなも優しくなれるよね？

だから私は、私独りでも頑張るよ。

心無い言葉に傷付けられて泣いちゃうこともあると思う。

恨むこともあると思う。「どうして私ばかり」って

それでも私は諦めないよ。

みんな幸せになつてほしいから。

幸せになりたいから。

楽しい日々を取り戻したいから。

笑顔の仮面を彫り付けて、女の子は身を削り続けます。いつか心を許し合ひ。手を取り笑ひ合える日を願ひ続けます。今もあなたの傍にきつと居ます。あなたの心の中にも木彫りの女の子がきつと居ます。勇敢でなくてもいい。弱くてもいい。怖がりのままでもいい。無理に優しくしなくてもいい。無理して合わない子と仲良くしなくてもいい。けれどたまに思い出してあげてください。気丈に振舞つても女の子は寂しいのです。私は夢の中

で彼女に会いました。あなたが「つまらないもの」と突き飛ばした人の中にも、幸せを願う木彫りの女の子は居るはずですよ。

言葉を投げかけるとき。傷付けられたとき。

一瞬でも彼女のことを思い出していただけたら幸いです。

どうか愛しいあなたが幸福に生きられますようにと、心より願い、お祈りいたします。